

令和4年度 学 校 要 覧



【めざす子ども像】

- ◇ 健やかに安全な生活を送る子ども
- ◇ 意欲的に自ら学ぶ子ども
- ◇ 思いやりのある心豊かな子ども

1 教育目標

しっかり動き、じっくり学び、みんなで育つ

2 教育方針及び指導の重点

○安全安心な生活態度の確立・体力の向上

- ・基本的な生活態度や自己管理意識の定着
- ・体力や運動能力の向上

○学ぶ意欲の醸成・確かな学力の定着

- ・児童理解や評価の工夫
- ・授業や国語科における研究の充実

○人間力や集団力の育成・家庭や地域との連携

- ・自己肯定感や帰属意識の醸成
- ・体験活動や交流学习の充実
- ・家庭や地域とのつながりと学校評価の活用

3 職員組織・児童在籍状況

職員構成	
校長	2・4年担任
教頭	5年担任
養護教諭	なかよし担任
事務職員	ぐんぐん担任
校務員	ALT
教育支援員	教育支援員

学 級		男子	女子	計	家庭数
複式	2年	2	0	2	1
	4年	0	1	1	0
5年		4	0	4	4
なかよし(知的)	1・3・6年	2	1	3	2
ぐんぐん(情緒)	3・5・6年	0	3	3	3
計		8	5	13	10

4 研究主題

○ 研究主題

「全員が参加する授業の工夫」～複式授業の充実～

○ 研究課題 : 目指す児童の学ぶ姿「 **おがわ** の子 」

お もいと伝える子 =話し合い活動の充実

- ・フリートーク活動の充実により培った聞く・話す力を授業の中でも活用し、読解力を育成する。
- ・『学び合い』研究を進め、主体的・対話的で深い学びの具現を図る。

が んばる子 =直接指導・間接指導の充実

- ・学年に応じた目標を設定し教科係を育成する。
- ・ワークシート学習を発展させ、思いや考えをまとめて書いたノートづくりの指導方法を研究する。
- ・全員が楽しく「わかる・できる」ような授業づくりの工夫について研究する。

わ かりあえる子 =相互理解の深化

- ・教師が一人ひとりの子どもの見取りを大事にし、単元を学習する前と後の考えの変容を把握する。
- ・特別な支援を必要とする児童についての実態把握をしておき、その子に応じた支援、手だてを計画して、授業を工夫する。

5 学校経営方針

<信頼される学校>

1 開かれた学校運営・教育活動

- 学校からの積極的な情報発信
- 授業や学校行事の公開
- 学校評価の活用

2 家庭・地域との連携・交流活動

- 保護者や地域の人々からの学び(ゲストティーチャー・共同学習)
- 地域の諸団体や関係機関、保・小・中・高校とのつながり
- 小川子ども守り隊との連携

<「ことば」と「体験」を基盤とした3力の定着>

1 たくましい体力

- 基本的な生活習慣や規範意識の定着
- 毎朝のトレーニング・体育授業の充実
- きのくにチャレンジランキングへの参加

2 確かな学力

- 読書活動や基礎学習・家庭学習の充実
- 教科係を核とした自主学習力の向上
- フリートーク活動を活用した話し合う力の育成
- 全国学力・学習状況調査や県漢字博士検定試験の活用

3 人間力・集団力

- 『学び合い』による学力向上と一人も見捨てない集団の形成
- 自分や家族、友達や周りの人を大切にする心の育成
- 学級活動や児童会活動、たてわり班活動の充実
- 体験活動(野菜・花づくり、伝統文化、現代的課題)の充実
- 年齢や文化の異なる多様な人々との交流の促進

<教職員の組織力と自己研鑽>

1 職員のチームワーク

- 報告・連絡・相談の徹底と情報の共有化
- 個々の持ち味を生かしあえる集団づくり

2 児童の把握・支援

- 一人ひとりの長所を伸ばす取組と評価の工夫
- 体験活動をとおした感性や市民性の育成
- 保護者・地域の人々とのつながりの重視

3 授業・自主研究への努力

- 言語活動を重視した指導方法の工夫改善
- 意欲的・自主的に学習できる学級づくり
- 複式授業で読解力を育てる研究の充実

6 学校沿革の概要

- 明治 6年 小川小学校を東福井字棟谷542番地に設立。同地小川八幡神社境内神宮寺をもって校舎とする。
- 昭和 22年 小川村立小川小学校と改称する。小川小学校育友会を発足する。
- 30年 野上町立小川小学校と改称する。
- 63年 吉野分校を閉校する。(開校より77年)
- 平成 3年 県・町指定生活科推進校研究発表会を開催する。
- 12年 文部科学省指定人権教育研究発表会を開催する。
- 18年 紀美野町立小川小学校と改称する。
(県)きのくに学びの創成支援事業研究発表会を開催する。(～19年)
- 20年 『和歌山発 3つのステップで読解力をつける複式の国語科授業』を出版し、自主研究発表会を開催する。
- 21年 「全国複式国語授業研究会」を発足し、夏季研修会及び冬季授業研修会を開催する。
- 22年 「全国複式国語授業研究会」夏季研修会及び冬季授業研修会を開催する。
『複式発 国語授業の教科書—これだけは知っておきたい国語 授業づくりQ&A40』を出版。
- 23年 「授業のユニバーサルデザイン」和歌山支部として、夏季研修会及び冬季研修会を開催する。
- 25年 『学び合い』研究を始める。

